

も、事に当たって「勇気をもって立ち向かうことか」「死の危険を冒す無謀なことか」を大胆に慎重に判断しなければならぬ場面が続くと教えています。

「死中活あり」

私は昨年の年頭所感で「当面はつらいことが多く複雑な絡みが解けない状態が続きますが、この事態を正しく認識し、志を捨てず、心を合わせて組織の根っ子を「しっかりと守り養生していくことに全力を傾注する。」としました。一年経ちましたが、今年も干支が教える通りこの難局が更に膨れ上がらないように、慎重に確に対応しなければなりません。

昭和の碩学安岡正篤先生の教えに、「六中観」という言葉があり、その中の一つに「死中活あり」とあります。「もう駄目だという状況の中にも必ず活路はある」ということで、私たち一人ひとりの覚悟次第で好機に転ずることが出来ると思っております。

経営の神様と崇められている松下幸之助も、生涯しばしばピンチに陥りながらも死中に活をひらいてきたのは有名ですが、こんな名言を残しています。

*「現実を否定してもいけない。是認してもいけない。容認しなければならない。」

*「逆境もよし、順境もよし。要はその与えられた境遇を素直に生き抜くことである。」

*「失敗すればやり直せばいい。やり直してダメなら、もう一度工夫し、もう一度やり直せばいい。」

*「素直が一番」「こけたら、立ちなはれ。」

「自律自助の実践」

関西吟詩は2年後に90周年を迎えます。現在の局面は順境とは言えませんが、逆境とも言い切れません。私達が現実を否定しても是認しても現実が変わりません。私は総本部会長としてこれを素直に受け止め、良き伝統は大切に継ぎながらも、現実のありのままを抱きかかえて、進化のために必要な変化には勇気をもって前進する決意であります。当面は執行部一体となつて、コロナで疲弊し不安を抱いている会員各位に安心して吟詠活動が出来るよう、あらゆる施策を実行し、自律自助の実践に励みますので、会員の皆様には会員1万人の復活を目指して「ひとり一声運動」に一層のご理解ご協力をお願い致します。

今年が皆さまにとって佳い年でありますようお願いいたします。

以上